

(一般情報)

## 水稻におけるスマート農業技術の活用に向けて

～基盤整備とあわせ、新技術の導入を検討しています～

長生農業事務所改良普及課 令和元年6月25日発

農事組合法人長南町東部営農組合（組合員数207名）は、農地中間管理事業を活用して地域内の農地を集積し、水稻—麦—大豆の2年3作のブロックローテーションを行っています。しかし排水・暗渠施設の老朽化や、作業効率の悪い小規模ほ場が多いことが問題となっていました。そこで今年度、「農地中間管理機構関連農地整備事業」により、排水施設等の更新と、作業の効率化に向けた区画の拡大工事を実施します。

農業事務所では、今後、効率的な営農を展開するために、ほ場の条件整備と合わせて、スマート農業技術の導入が効果的であると考え、県の「スマート農業導入実証事業」により、可変施肥田植機を活用した田植えと、人工衛星を活用した水稻生育診断を、組合に委託して、その有効性を検証しています。今後も、生産者や関係機関・民間企業との情報交換を行いながら、地域にあったスマート農業技術の導入を進めていきます。



可変施肥田植機による田植え



可変施肥を行ったほ場の水稻の生育